

議事要旨

<意見交換（生活援助型ヘルパー研修について）>

- ニーズ自体はあるかと思うが、利用者と公の自立を促すような共に行う支援が今主流となってきたので、生活援助型のサービスが将来的にこれからずっと続くのかという疑問はある。
 - 利用者も自立を目指す方が多いので単なる家事代行とか、そういったところの利用者がいればマッチングすると思うが、現時点では少なくなってきたという現状。
- 訪問介護の研修を実施しており、参加者は研修内容を理解しているが、これがどうやって仕事に結びついて行くのだろうかといった意見がでており、仕事へのマッチングのあと一声かけじゃないかと実感したところ。
- 担い手の育成を各包括支援センターで工夫して行っているが、コロナが長引いている影響で、地域の方たちも少しトーンダウンしており、全体的に地域活動も低迷しているという印象を受ける。
 - 仕事へのマッチングに包括支援センターも関わっていければニーズは今でもあるので、マッチングがうまくいくと地域としても活動が活発になってくるのではないか。
 - 包括支援センターの現場の感覚としては、今でもニーズは確かにあり、ボランティアポイント制度と連動しながら地域の方になるべく参加してもらえようお声かけを行っているところ。
 - 介護保険制度当初のお手伝いさんの感覚という当初の誤解については、利用者もケアマネジャーも少しずつ変化しているのではないかと感じており、地域の人材育成と並行して、ローソンの移動販売を呼ぶ等少しずつ新しいものが生み出されている印象があるので、そういったものが相互にうまく進んでいけばと思う。
- 私の小規模多機能事業所では、生活援助の人材育成をして現在 12 名を採用しており、熊本市の 16 名中 3 名という活用実績は、非常にもったいなく感じる。
 - 小規模多機能であれば、自宅に訪問して生活全般、要介護の部分は全部を支えているわけだが、掃除、洗濯、買い物についても介護福祉士等専門職で対応しており、

それではもったいないと高齢者を中心に生活援助に関わる人材を育成・募集し、現在 12 名に活動していただいている状況。

- 単にホームヘルパーの事業所として考えていくとどうしても生活援助型ヘルパーというのは、ホームヘルパーの事業所としては、そんなにニーズがあるか分からないが、小規模多機能事業所にとっては本当に助かる人材なので、小規模多機能事業所あたりに積極的に声を掛けると、うちに来てくださいという形で活用していくことができると思う。
- 小規模多機能事業所の支援の中身は、洗濯から身体介護まで多岐に渡り、本当に専門職でやらないといけないところとそうでない部分とがあるため、専門職でやるべきところは専門職で対応し、掃除、洗濯、買い物等については育成されている方達にお願い出来たらと考えている。

<意見交換（小規模法人のネットワーク化による協働推進事業について）>

- 社会福祉法人は八カ所を熊本市内の法人で連携して、様々なアプローチを実施しているが、コロナがボトルネックになっており、思うように動けていない。
- 今年度は、熊本市内の学生に向けて、もっと介護現場のイメージを分かりやすく伝えるために、施設長同士の対談ビデオを作成し、オンラインでの説明会と就職面接会等において連携法人ネットワークを活用して実施予定。
- コロナ禍でない中でやれたこととコロナ禍だから形を変えて実施したという二つ程パターンが出来てきているので、これをうまくミックスアップさせながら「熊本市モデル」のようなものができれば、本事業を継続する意味はあるし、他基礎自治体のモデルになればいいと思う。
- 事業を通じての就職者数等、実施後のアウトカムについては、アンケートの振り返り等検証が必要であり今後の課題と感じているが、熊本市においては継続的に当該事業を続けてもらえるとありがたい。